

施策番号	223	施策名	水産業の振興	主管課名	産業観光課
総合計画 体系	政策名	2	地域経済を支える里づくり	令和 2 年度課長名	小椋 正己
	関係課名			シート作成者	角田 貴之

1. 施策の対象と意図の指標

① 施策の対象(誰、何が対象か)		③ 対象指標(対象の数・規模)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア	町内の水産業者	→	ア	人	見込値			5	4	4
						実績値	6	4	4	
イ		→	イ		見込値					
						実績値				
ウ		→	ウ		見込値					
						実績値				
② 施策の意図(対象をどうしたいのか)		④ 成果指標(意図の達成度)		単位	区分	30 年度	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度
ア	担い手の確保	→	ア	人	目標値	8	8	8	4	4
					実績値	4	4	4		
					達成率	50.0%	50.0%	50.0%	100.0%	100.0%
イ	生産高を維持してもらう	→	イ	万匹	目標値	48	49	50	41	42
					実績値	40	35	35		
					達成率	83.3%	71.4%	70.0%	85.4%	83.3%
ウ		→	ウ		目標値					
					実績値					
					達成率					
エ		→	エ		目標値					
					実績値					
					達成率					
⑤ 成果指標 設定の考え方	鏡野町の特産品である”ひらめ”(アマゴ)養殖の存続と発展のために、その担い手数及び生産量を把握する必要があるため成果指標とした。			⑥ 成果指標の 把握方法と 算定式等	生産者への毎年度末の実態調査(指定管理事業報告書、聞き取り)で把握。					

2. 施策の役割分担

	① 住民の役割 (自助・共助・協働でやるべきこと)	② 行政の役割 (町・都道府県・国がやるべきこと)
施策成果向上 に向けた 住民と行政との 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> 各種イベントへの参画等、贈答品としての利用を促進し、地域ブランドとして積極的な消費の活用を図る。 ひらめ生産者連絡協議会会員間における情報の共有と収集及びそれらを活用した新たな取組を行う。 後継者の育成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ひらめ生産者連絡協議会の活動に対する支援を行う。 地域の特産品として、町内外へPR活動を行い、新規担い手の確保に対するあらゆる形での支援を行う。

3. 評価結果

1. 施策の成果水準とその背景・要因	
2 年度 の 評価結果	① 成果指標の時系列比較 (成果は向上したか? 低下したか? 要因は?)
	<p>・養殖者の高齢化や水害による被害からの復旧断念等により、養殖者が減少しており今後の後継者の養成が喫緊の課題となっている。それに伴い、養魚数、生産量の低下が懸念される。</p>
	<input type="checkbox"/> 向上した <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない <input checked="" type="checkbox"/> 低下した
2 年度 の 評価結果	② 他団体との比較 (近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか、低いのか、その背景・要因は?)
	<p>・鏡野町内でも特に富地域(旧富村)では、昭和51年度にひらめ養殖場を整備し、以後、ひらめを主要な特産品として取り組んでおり、長い経験と生産技術の蓄積により他の団体に比べ成果水準は高い。</p>
	<input checked="" type="checkbox"/> 高い水準 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
2 年度 の 評価結果	③ 住民の期待水準との比較 (住民の期待よりも高い水準か、低い水準か、どんな意見や要望が寄せられているか?)
	<p>・町の特産品として住民の期待は高いが、養殖者の減少が進み生産継続に不安が生じている。早急な新規参入者の確保や高収益化が大きな課題となっている。施設整備から40年以上経過し、改良や修繕は行っているものの、旧態依然であるため新しい技術の導入の希望がある。</p>
	<input type="checkbox"/> 高い水準 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ同水準 <input type="checkbox"/> 低い水準
2. 施策の成果実績に対する 2 年度の取組や目標達成度	
■ 2 年度の主な取組の成果(改革改善した取組、目標の達成度は?)	
<p>・(株)未来奥津に鏡野町淡水魚養殖施設と鏡野町ひらめ種苗センターの指定管理料として、3,770千円を交付した。</p> <p>・淡水魚養殖の省力化を図るため、ICT技術を導入して、養殖池の水位低下を知らせる遠隔通報装置の整備を2箇所で行った。</p>	
<input type="checkbox"/> 目標値以上 <input type="checkbox"/> 目標値どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標値以下	
3. 施策の今後の課題と改革改善の方向 (うまくいかなかった取組や事務事業は? その原因は?)	
<p>・老朽化した施設の修繕・更改を行うとともに生産者の負担軽減を行うためにICTを利用した遠隔管理技術等の導入を促進し、高齢化の進む生産者の事業継続と新規参入者の獲得を図る。また、ひらめ養殖を請け負う第3セクターにおいても後継者不足が深刻で今後の養殖事業継続も危ういものとなっている。</p> <p>・今後もイベントの参加により消費者への知名度アップを図り、新商品開発等で市場アピールを行い更なる販路拡大を行う。</p> <p>・町内における消費も視野に入れ、調理メニュー開発や学校給食への提供により地産地消での浸透を図る。</p> <p>・高い技術による品質向上を進め、販売拡大のための方策の指導・助言するなど、自助努力を促しながら産地ブランドの確立に向けた取組を行う事により、高収益化を図る。</p>	